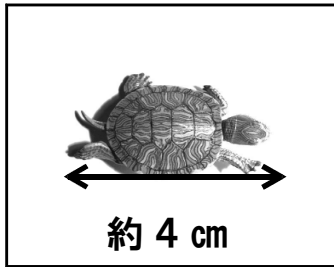


○野口さんは、国語の学習で意見文を書きました。ところが、書いた意見文がまだ相手に伝わりにくいのではないかと野口さんは心配になりました。そこで、よりよい内容になるように、意見文を修正することになりました。

次の【野口さんの意見文】を読み、あとの問いに答えましょう。

【野口さんの意見文】



二枚の写真を見てもらいたい。
上の写真はペットショップやホームセンターで売られている、ミドリガメだ。全身の緑、黄色、黒の線とほほに入った赤色が美しく、見た目にもかわいらしいことから、世界中で人気がある。
下の写真は、何というカメか分かるだろうか。実はこれが大人になったミドリガメなのだ。ほほの赤色は残っているが、こうらはかなり黒くなっている。ちなみに二枚目の写真は、盛岡市の高松の池で写されたものだ。



だが、本当は、これはおかしい話なのである。そもそも、ミドリガメは日本の動物ではない。本来は北アメリカにすんでいる動物なのだ。それが、[※]わがもの顔で、日本の池で生きている。だから、日本国内で捨てられたり、あるいは逃げ出したりしたミドリガメは、あちらこちらの池や沼、川などで増えるようになった。

ミドリガメが増えると、同じ環境にすむほかの動物たちの暮らしに悪影響が出てくる。例えば、カメ同士ならエサの取り合いになる。自然の中にあるエサの量は変わらないのに、大食らいのミドリガメが入ってくれば、もとからいた日本のカメは数を減らす危険がある。また、エサとなる小さな動物や植物も減ってしまう。つまり、元々の自然のバランスがこわれてしまうのである。

一方で、ミドリガメをかばう意見もある。人間の都合で連れてこられた外国で、ミドリガメは必死に生きているだけだ。与えられた環境の中で生き抜こうとすることが、なぜいけないのか。

ミドリガメの立場に立てば、確かにその通りである。ミドリガメそのものは、何も悪くない。

しかし、自然のバランスは、その土地にすむ生物たちが、お互いを支え合って成り立つものだ。何百万年もかけて作られたバランスを、たった一種類の生物がこわしてしまう例は決してめずらしいものではない。結果として、元からいた生物がほろびてしまうことさえあるのだ。

^{かんきょうしょう}環境省のホームページでは「^{※2}要注意外来生物リスト」にミドリガメの名前をのせている。ミドリガメが増えることで起こる問題を示した上で、注意事項には次のように書かれている。

「野外で確認される多くの個体が、^{※3}遺棄^{※4}か逸^{いっしゅつ}出が原因とされる。飼育に関するマナーの向上が特に必要である。販売、飼育にあたっては、^{※3}長生き^{※4}することや大きくなることを十分理解し、飼い主が責任を持って飼育することを確認する必要がある。」

ここで強調されているのは、飼い主のマナーを高めること、そして責任をもって飼育することだ。これは、動物の飼育について、しっかりした考えをもっていない人間がたくさんいたということでもある。ミドリガメは、そうした人間たちによって日本中に放され、今日も自然のバランスをこわし続けている。動物の飼育をするときには、自分に飼えるのかどうかよく考えなくてはならない。少なくとも、飼い方をよく調べ、準備をしっかりと行い、その動物の命が終わるまで世話を続けなくてはならない。飼い主がこうしたマナーと責任をもつことが、自然を守っていくために、私たちができる大切な方法のひとつなのである。

※1 わがもの顔……人の物なのに、自分の物だというようなふるまい。

※2 外来生物……もとの自然には存在せず、外国などよその土地からやってきた生物。

※3 遺棄……わざと捨ててしまうこと。

※4 逸出……抜け出ること。ここでは、飼い主から逃げ出すこと。

一 野口さんは、意見文のはじめの部分にも意見をつけ足し、自分の主張を強調することにしました。
【野口さんの意見文】の内容に合うように、 に適切な言葉を書きましよう。

ペットを飼うことは簡単だ。しかし、最後まで飼い続けることはおずかしい。だから私たちは
をよく考えなければならない。

二 野口さんは、意見文の内容を次のようなポスターにまとめ、友だちに紹介することにしました。
【条件】に合わせて、ポスターの 1 にふさわしい文を書きましよう。

あなたは、最後まで飼ってあげられますか
捨てられた外来生物が、日本の自然を傷つけています。

1

ドラゴン
は
こんなに
大き
な
生き
物
です



【条件】

- 野口さんの主張から考えること。
- 一文でメッセージを伝えること。

組 番 氏 名